

確かな学びと豊かな心・健やかな体をはぐくむ 学校力向上プラン【学校評価書】

堺市立東陶器小学校
校長 間地 洋介

中学校区におけるめざす子ども像 ○将来をみすえ、自ら学習できる子 ○自分のよさを知り、人とつながり協働する子 ○ゆめの実現に向かって粘り強く取り組み、活力ある生活を送れる子												
令和6年度 重点目標 ・各教科において、子どもの問いから出発し、全員が安心して確実に一連の問題解決に取り組むことができる学習、その学年で身につけるべき資質・能力や見方・考え方を明らかにし、身につけられる学習を展開する。 ・生活・総合的な学習の時間において、子どもが自ら対象に働きかけ、追究を続ける「探究」の学びができるように、地域を中心とする学校内外の人的・物的環境（ＩＣＴ環境を含む）を活用した教材・題材開発と実践を展開する。 ・宿題や自主学習の質や量に工夫を加え、家庭との連携を図る。以上を含むすべての教育活動を、これまで通り、子どもの現状を深く理解し、その人権を尊重するところからスタートさせ、自己肯定感を高め、自立した学習者を育成する。												
「確かな学び」の現状 教科全般に、個別の知識技能の習得に終始せず、資質・能力や見方・考え方の育成をめざした学習指導を展開しているが、学びの蓄積が少ないために手応えを感じられず、課題に向き合うことがむずかしい児童も一定程度存在する。 国語科においても、基礎的な内容である漢字を「書く」「読む」が課題だという共通点はあるが、多くの課題は学年によって異なっており、学校として国語の学習について系統性や一貫性を高めていくことも必要と考えられる。 問題解決的な学習の仕方や学習への手ごたえに関する質問については、肯定的に回答した児童の割合が市平均を上回るものもあり、校内研修の成果が表れているが、探究的な学びに関する指標については、全般に低い傾向にある。							「豊かな心・健やかな体」の現状 地域の方々から「子どもたちの顔がとても穏やかになり、挨拶ができる子が多くなった」との声を聞くようになっている。これは、全教職員が「受け止め」「認め」「ほめる」言葉を効果的に使って授業実践を行うとともに、子どもの人権に配慮する意識をもって全ての教育活動を行い、子どもとの信頼関係を築くことを基本としているからである。 学力調査等の質問紙の「やり遂げてうれしかったことがある」「新たなことを知るのは楽しい」等の項目では、肯定的な回答が8割を超えるが、自己肯定感を表す「自分にはよいところがある」では肯定的な回答は7～8割になる。また、スマホ所持率や長時間使用の割合、肥満傾向は市平均より高く、睡眠の質や体力等学校生活全般への影響が懸念される。					
大項目	中項目	具体目標	具体的な取組 (●重点とする取組、★中学校区での取組)	判断基準 (評価のものさし)	評価方法	評価時期	進捗確認 (～1月)	達成状況（年度末）				
								自己評価		学校関係者評価		
								◎	児童が自ら問いを立て追究して資質・能力や見方・考え方を高める学習が国・社・算・理に広がり、校内研修等で共有している。	◎	参観授業からも、自ら考え発表することを大切にしていることがよくわかる。子どもにとって楽しい学習になるよう、継続を期待する	
								◎	地域を対象とした探究の学びに積み重ねが見られ、総合4年の特殊詐欺防止チームの活動は警察からの表彰を受けた。	◎	地域と連携した探究の取組については、ふれあいまつりでの6年生の発表に質の高さが感じられた。継続を期待する。	
確かな学び	教科・探究の力向上	各学年で身につけるべき資質・能力や見方・考え方を明らかにし子どもが自ら課題を設定し解決に向かう探究の学びを保障する。そのために授業改善を進める。	●個々の出発点から学びを始め、自ら考えを表し、交流し、振り返って手応えを実感できる学習の展開に向けた授業改善	自力解決してノートに記入する子が8割、説明できる子が5割。	ノート、タブレットの記述	毎学期	◎	自ら問いを追究する学習を展開している。自ら考えを書き表し、理解を深める児童が増え、その一端を学校だよりで紹介した。	◎	児童が自ら問いを立て追究して資質・能力や見方・考え方を高める学習が国・社・算・理に広がり、校内研修等で共有している。	◎	参観授業からも、自ら考え発表することを大切にしていることがよくわかる。子どもにとって楽しい学習になるよう、継続を期待する
			生活、総合において、自ら課題を設定、調べ、まとめ、発表する探究の学習内容の充実	課題設定からまとめ・表現に至る探究の学びがみられる子が5割	板書の記録 児童のノートの記述	毎学期	◎	地域との交流を繰り返して活動を高める、調査に基づくデータを示して路面標示を実現する等、探究の学びが充実してきた。	◎	地域を対象とした探究の学びに積み重ねが見られ、総合4年の特殊詐欺防止チームの活動は警察からの表彰を受けた。	◎	地域と連携した探究の取組については、ふれあいまつりでの6年生の発表に質の高さが感じられた。継続を期待する。
			低学年からの家庭学習の習慣をつけるための取組と、思いや考えを粘り強く表そうとする力や態度をつけるための取組を進める。	●「読解指導」「書く活動」の充実と教師の赤ペン指導による考えを言葉で表す習慣づくり	思いや考えを粘り強く言葉で表そうとする態度を有する児童が8割	毎学期	○	ノート記述から学習状況を読み取り、赤ペンでの「対話」がきめ細かく行われている。	○	個々の学習状況を細かく読み取る赤ペン指導が上記の児童が自ら問いを立て追究する学習を支え、下記の自己肯定感の向上につながっている。また自主学習ノートを通じて学習に楽しさを見つけ出す児童が増えている。	○	今求められている学習はよりきめ細かい準備・点検等が必要だろうが、働き方改革も視野に入れて無理なく進めてもらいたい。
			就学前から一貫して上記の力をつけるための取組を進める。	朝の時間や放課後を使った補充学習の充実。「考える」「調べる」自主学習ノートの実施。	習熟に使った記録物、自主学習ノートの記述内容	毎学期	○	提出日や回数を指定した自主学習ノートの取組が広がり、よいノート例を掲示するなど意欲を高める工夫が行われている。	○	幼小中連携一貫した子どもの育成の意識の共有を、今後授業改善等の実践につなげる。	○	考える、調べる、思いを伝えるなど、自分たちが経験した教育とは違っていることを痛感するとともに、この取組を続けてもらいたい。
豊かな心・健やかな体	心 の 教 育 の 充 実	すべての教育活動において人権的な視点での見直しと支援を行う。道徳教育の計画的な実践を行い、読書活動の充実で心を耕す活動に力を入れる	道徳教育の教科化に対応して、授業の充実と評価システムの確立	道徳の教科書を計画的に活用する。	指導案の提出	毎学期	○	多様な状況にある児童が安心して学校で過ごせるよう全教育活動で人権に配慮している本校の取組を、堺市研研究大会で発表した学校図書館での貸し出し状況から児童の読書傾向を分析し、読書の幅を広げる取組を計画中である（多くの分野の本を読むための「読書ビンゴ」を図書委員会が計画中）。	○	上記の「確かな学び」を創り出す取組を、児童の尊厳を大切にする姿勢で進めたことにより、児童の自己肯定感も向上している。	○	家庭環境等多様な児童がいる中、それぞれの人権を尊重する取組の成果が感じられる。トータルでの学校での学びが大きくなるものと感じている。
			強い否定や命令口調ではなく、児童の尊厳に配慮した「温かい言葉」が飛び交う環境づくりに励む	終礼や職員会議での生徒指導の事例の減少	指導報告書	毎学期	○	学校図書館での貸し出し状況から児童の読書傾向を分析し、読書の幅を広げる取組を計画中である（多くの分野の本を読むための「読書ビンゴ」を図書委員会が計画中）。	○	道徳教育推進教師による公開授業等により、実践力につながる学習のあり方を共有した。	○	本離れが進んでいる風潮の中で、読書ビンゴにみられるような、児童が多様な本に触れ、読む機会を増やす取組を継続してもらいたい。
			●図書館を活用しての読書量の増加をするために働きかける。	図書館のデジタル化で冊数の把握可能。	実施報告	毎学期	○	授業改善による体力・運動能力、運動習慣の形成を図るため、体育科を専門とする教員が実技研修や公開授業を実施した。	○	児童図書委員会の取組とともに、学校司書と連携し読書習慣形成を図る。	○	読書の授業を起点として、運動能力や運動習慣を身につける取組を継続してもらいたい。
			体育の学習における運動の質と量の向上と学校行事等との関連によって、体力、運動能力を高め、運動習慣を形成する。	体力テストの結果において、昨年度の結果からの経年評価をして、課題を把握	反復横跳び等の本校の課題の種目のデータ分析	毎学期	○	長なわ大会に向けて、各学年の発達段階に応じた取組を実践している。	○	質の高い問題解決学習と十分な運動量を両立する体育授業が各学年で広がった。実技研修をもとにした各学年での長なわ単元の取組により、大会では多くのクラスが設定した目標を上回る記録を達成した。	○	楽しみながら目標に向かってがんばれる取組を、今後も継続してもらいたい。
地域協働	信 頼 さ れ る 学 校	学校情報の積極的な発信、地域人材ボランティアの活用など、地域との連携を深める。	教育活動に積極的な人材の発掘と登録とその活用	ゲストティーチャーやボランティアの人数の増加	実践報告	年度末	◎	地域の方の協力を得て、老人福祉施設 障害者作業所等が新たな交流先となり、探究の学びが深まった。制服のリサイクルなど、今日的課題に応じた活動が成果を生んでいる。	◎	地域の方のご協力により、新たな対象との活動ができた。新たに、今の時代に応じた制服リサイクルを始めていただいた。HP アクセス数は減っているが引き続き発信に努める。	◎	地域としては、校区を対象とした生活・総合での探究の取組に引き続き協力したい。学校としても、地域とのつながりを大切にした取組を続けてもらいたい。
			●本校のホームページを中心とした情報発信の継続と充実	昨年度のアクセス数を上回る	アクセス数比較	年度末	△		△		△	
校長より（年度末） ・児童が自ら問いを持ち、追究する「個別最適化と協働化を一体化した」学習が、国語、社会、算数、理科に広がり、資質・能力や見方・考え方の育成に成果がみられた。 ・地域を題材とし、地域に「出会う」→「知る」→「貢献する」という探究の学習が定着し、取組の積み重ねにより児童が見せる態度や能力に高まりがみられた。 ・様々な点で「困り感」のある児童の自己肯定感を高めるため、実態把握・原因究明を具体的な対策につなげる校内体制の構築に引き続き努める。									学校関係者評価者から（年度末） ・人権尊重をベースにした教育活動を継続し、適宜発信してもらいたい。 ・地域を題材とした探究の学習を、今後も継続してもらいたい。 ・体力向上、読書習慣の形成に引き続き取り組んでももらいたい。			

